



# 第20回

近畿臨床工学会が 11月23日(土)

・24日(日)になら 100年会館にて  
開催されます。

当院からは、臨床工学科  
櫃割まさ代 技士 が 11月23日  
に学術発表を致しますのでご紹介  
します。

			002-4	日本と中国の臨床工技士の違いについて	此江元
11月23日(土)第1日目 小ホール	ME機器①	13:00~14:00	O03-1	医療機器の汚染の現状と清拭の有効性評価	加藤知子
			O03-2	ATPモニタリングによる使用環境と清掃点検評価	井原由奈
			O03-3	シリンジポンプ機器表面温度と薬液温度に関する調査について	平野匠
			O03-4	シリンジポンプの機械精度と流量精度の比較について	村山賢介
			O03-5	標準12誘導心電計に使用するディスプレイ電極における抵抗値変化の調査	印藤翔一
			O03-6	呼吸数モニタリングによる医療安全システム構築について	塩田隆
	循環①	14:10~15:00	O04-1	デバイスチェック時に心内心電図に認められたノイズの調査結果	三浦晃裕
			O04-2	ペースメーカー患者のMRI検査における当院の対応	吉澤潤
			O04-3	ペースメーカージェネレータ交換術を期にstored EGMで心房リードの劣化を疑うノイズを認めたい一例	櫃割まさ代
			O04-4	当院におけるデバイス関連業務の課題	衣笠佑基
	代謝①	15:10~16:10	O04-5	心房頻拍中にV EGMが変化したために波形解析によるSVT識別が有効に機能しなかった1症例	寺田寛
			O05-1	血液回路からの溶出物が紫外光を用いたPVP測定に与える影響	松島広平
			O05-2	吸光光度法を用いたリアルタイムモニタリングに向けての検討	陶山実有希
			O05-3	蛋白様物質付着による電磁弁への影響	志賀智史
			O05-4	塩素ガス発生抑制剤(セクリターン)の使用検討	田中大介
			O05-5	HDFフィルタのPVP溶出特性の検討	前田圭介
	代謝②	16:20~17:20	O05-6	脱血部流路抵抗がローラーポンプの圧力変動に及ぼす影響とバックフロー(BF)のメカニズム	山本和輝
			O06-1	高効率持続的血液浄化における当院の取り組み	山本桂
			O06-2	AN69膜の貧血改善効果	大槻哲矢
			O06-3	全量腹水(胸水)を抜き、安全かつ迅速に処理、再静注することは可能か? ~KM-CARTIについて~	朝日雄一郎
			O06-4	NMO患者に対する免疫吸着療法の効果と副作用	押川千穂
			O06-5	LDLアフェレシスとDFPP治療効果を比較した1症例	井上雄介
			O06-6	間質性肺炎に対し早期にPMXを施行し奏効した1症例	梶原聡司
			O07-1	DRドライ溶解装置(DAD50)における空ボトルの減容停止事象に関する報告	半藤勝

ペースメーカージェネレータ交換術を期に stored EGM で心房リードの劣化を疑うノイズを認めた一例

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科<sup>1)</sup> 内科<sup>2)</sup>

○櫃割まさ代<sup>1)</sup>, 上西大輔<sup>1)</sup>, 山田早悠里<sup>1)</sup>, 野口幸<sup>1)</sup>, 齊藤精久<sup>2)</sup>, 高比康臣<sup>2)</sup>

【症例】71歳女性。1993年1月に、他院にて洞不全症候群と診断され、DDD ペースメーカー移植術を受けた。心房リードは BIOTRONIK 社製 JB53-BP/53cm (心室リード詳細は不詳)。2006年9月にジェネレータ交換術 (BIOTRONIK: ACTROS DR) と、新規に心室リードを植込んでいる (BIOTRONIK 社製 polyrox PX53/15-BP/53cm)。2006年に当院に転院し、2012年8月電池消耗でペースメーカージェネレータ交換術を行った。(St.JudeMedical: Nuance DR)。

同年12月、植込み4ヶ月後のペースメーカーチェックの際、10~30秒持続する AMS エピソード4件が検出された。最大心房レートは 250~490bpm、最大心室レートは 80~90bpm であった。stored EGM の記録上心房リードのみにノイズが検出され、心房リードのトラブルを疑ったが、一旦経過観察とした。1ヶ月後2013年1月ペースメーカーチェックで、再度心房リードにノイズが検出された。胸部レントゲン写真ではリード接続部の位置は正常であったので、loose pin の可能性を否定した。しかし、心房リード植込みから20年経過しており、リード自体の劣化の可能性が高いと判断し、またペーシング率 4.9%であるので、DDD から VVI に設定変更した。現在外来通院であるが、ペースメーカー症候群は認めていない。

【結語】ペースメーカー交換術後に、心房リードのトラブルを疑う症例を経験した。長期間使用しているリードは、劣化により様々なトラブルを発症する可能性がある。ペースメーカーチェック時あらゆる現象に対応できるよう、様々な機種 of 機能を理解し、日々トレーニングする必要がある。